

1 学校として目指す授業

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた、児童一人一人が自分の考えをもち適切に表現することのできる授業

2 児童の現状

- (1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）
- (2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）
- (3) その他の資料を活用した分析

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析	活用した資料名及び分析結果
・国語では、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることに課題がある。算数では、「図形」を作図する問題の理解に課題がある。 ・「分数の計算（算数）」「水の温まり方（理科）」といった問題では都や全国よりも無回答率が高い。分からない問題があったときに粘り強く考えずに諦めてしまい、避けていこうとする傾向があることが窺える。 ・一人一人がしっかりと考えをもつことができるよう授業を改善していくなど、ボトムアップを図る必要がある。	・国語科、算数科の学習の大切さや有用性についての質問に対して肯定的に捉えている児童の割合が都や全国の平均に比べて高い。一方で国語や算数の勉強があまり好きではない、好きではないと回答した児童が約4割と多くいる。 ・自分と違う意見について考えることを楽しいと捉えられていない児童が約2割と多くいる。 ・話し合うことの意義を皆で考えたり、積極的に話し合う場面を多く設定したりするなど、自分の考えを表現することや学ぶこと自体の楽しさを味わうことができるよう授業を改善していく必要がある。	

3 児童の学力・学習状況等の課題

・課題解決の際に他者の意見を尊重するよさや友達と協働するよさを味わっている児童が多いが、自分と違う意見を認めたり、協力して課題を解決したりすることを楽しさを見出していない児童もいる。 ・国語、算数の重要性は分かっているながらも学習の楽しさを味わえていない。 ・難しい課題に直面した際に、「自分の力で解決していこう。」と粘り強く取り組むことができない、自分の自信がもてない問題を避けていこうとする傾向がある。	【授業改善推進プランの活用法】 ①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。 ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童 の現状」にまとめる。 ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学 力・学習状況等の課題」にまとめる。 ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の 視点」を設定する。 ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の 方策」を設定する。 → <u>学校指 導 課へ提出する。</u> ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施
4 学校全体の授業改善の視点	
○子供たち一人一人がしっかりと考えをもつことができるようにするための指導。 ○子供たちが自分なりに自分の考えを表現することができるようにするための指導。	

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導等で個別に声をかけたり、ねらいを焦点化させたりする。 ・視覚的な手立てを効果的に活用する。 ・ペアで互いに自分の考えを伝える場を意図的に設定する。				場面の様子を絵や図・式に表して立式の根拠を友達と話し合えるように、児童一人ひとりに合った場を設定する（ノート・ICT機器など）。				一人一人の児童が具体的な活動や体験を通して質の高い気付きを得、それを表現するため、UDの視点を取り入れ、「見付ける」・「比べる」・「試す」・「見通す」などの多様な学習活動を行うように授業を改善していく。		友達と関わりながら、楽しんで表現できる活動を意図的に設定する。また、演奏を聴いて、良さを言葉で伝え合う活動を取り入れる。		アイデアを思い付き、楽しんで自分の思いを表現できるよう、個々に応じた言葉掛けを工夫したり、基本的な技能について計画的に指導をしたりする。			様々な運動遊びに進んで取り組む中で、工夫や考えたことを他者に伝える活動や時間を設ける。動きの見本を学級全体で確認したり、掲示物にしたりし、動きを広げられるようにする。				ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。実践的活動や体験的活動を取り入れ、道徳的諸価値について理解できるようにする。		
中学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導で個別に声をかけたり、ねらいを焦点化させたりする。 ・小グループで発表したり、話し合ったりする活動を意図的に取り入れる。		ICT機器を活用し、学習活動に対する資料を児童に分かりやすく提示する。ペアやグループで話し合う活動を意図的に設定し、自身にできることを選択・判断できるよう指導する。		立式の根拠や課題解決の方法などについて、一人ひとりに合った手段を用いて友達と考えを共有したり、よりよい方法や答えを考えたりする場を設定する。		科学的事象について学習経験や生活経験を想起させ、予想や仮説をもたせる場を設定する。実験結果を整理、共有する場を意図的に設定することで自分の考えをもたせやすくする。				演奏に対する思いや意図をもてるように、ペアや小グループで話し合う活動を意図的に設定する。また、多様な表現の良さに気付けよう、互いの演奏を聴き合い、良さを言葉で伝え合う活動を取り入れる。		アイデアを思い付き、進んで自分の思いを表現できるように、考えるヒントを視覚的に提示したり、試し活動を意図的に設定したりする。			様々な運動に進んで取り組む中で、自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を取り入れる。動画による手本を見せたり、自己の動きを友達と確認したりし、課題発見や課題解決を行う。				ICT機器を用いて資料を提示し、視覚的に捉えやすくする。資料を基に自分の考えを書いたり、意見を聞いたり話し合ったりする活動を取り入れ、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てられるようにする。		
高学年	・児童が、自分の考えをもてるように、机間指導で個別に声をかける、ねらいを焦点化する、話し合いの視点を絞るなどの工夫をする。 ・小グループでICT機器を活用して情報交換をしたり、小グループで考えと比べる活動を意図的に設定する。		ICT機器を用いて情報収集したり、学習課題に対する自分の考えを発表したり深めたりする。小グループで調べたことを共有、話し合う活動を意図的に設定したり、調べる内容や順序を自身で決めさせたり、学習の進め方を選択・判断できるよう指導する。		立式の根拠や課題解決の方法などについて、一人ひとりに合った手段を用いて友達と考えを共有したり、よりよい方法や答えを考えたりする場を設定する。		科学的事象について学習経験や生活経験を想起させる。予想や仮説をもたせ、そう考えた根拠を話し合わせる場を設定する。実験結果をICT、図や表などを用いて分かりやすくまとめ、結果から考えられることを自分の言葉で表現できるように指導する。				演奏に対する思いや意図をもてるように、ICT機器を活用して情報交換したり、小グループで話し合う活動を意図的に設定する。また多様な表現の良さに気付けよう、互いの演奏を聴き合い、工夫点を言葉で伝え合う活動を取り入れる。		アイデアを思い付き、主体的に自分の思いを表現できるように、振り返りカードの記述などから表し方の違いを例示したり、互いの工夫を見合う時間を意図的に設定したりする。		ペアやグループでの活動を取り入れ、話し合ったり教え合ったりする場を設定する。作品等は実物を見たり、タブレットで共有したりして互いの工夫した点やよかった点を伝え合ったり認め合ったりし、次の学習につなげていく。		様々な運動に進んで取り組む中で、自己の課題を発見し、他者と伝え合って課題を解決する活動を用いて互いの考えを共有する場面を意図的に設ける。		ALTやICTを効果的に用いて表現に親しませ、ペアやグループの活動を多く設定する。また、積極的に自分の考えを発表したり他者と交流したりすることで、物事を多面的・多角的に考え自己の生き方について深められるようにする。			